

# 「ゆらゆら帯」や生物観察

熊野古道  
自然学校

## 銚子川で県内親子10人

県立熊野古道センターの本年度第3回熊野古道自然学校「銚子川ゆらゆら帯観察」が29日に紀北町相賀の銚子川河口であり、県内の小学生親子ら10人が汽水域の「ゆらゆら帯」や水生生物の観察を通して銚子川の魅力を感じた。

北町を流れる全長約18キロ。源流から河口まで一気に下る水の透明度は「銚子川ブルー」と形容され、ハゼ類やエビ類など多種の生物が確認できる。

今回は淡水と海水が混じり合う河口域で見られる「ゆらゆら帯」の観察会を企画。講師はNPO法人ふるさと企画舎理事長で、自然保護グループ「海山めだかの学校」校長の田上さん(60)が務めた。

参加者は銚子川下流の河川敷に集合。田上さんが「奇跡の清流」とされる銚子川特徴や魅力を紹介した。

「源流から標高差1300以上の勾配が清流を形成するゆえに、一気に流れるため透明度が高く、ゆらゆら帯が肉眼で見える川は日本中を探してもない」とし、「海水と淡水が混じり合わずばれている」と説明し

「鮮明に分かれる。そのラインがゆらゆら帯で、水中の透明度が際立っていることから『銚子川ブルー』と呼ぶ」と呼ばれている」と説明し、参加者は田上さんが水中カメラで撮影した銚子川の動画で水色のラインのゆらゆら帯を確認。子どもたちは「魚がいっぱい見える」「真っ青できれい」と歓声を上げ、水中に手を入れてゆらゆら帯を境に水温が4度ほど違うことも学習した。

上流のまいこみ淵に移動し、銚子川河口域で確認できるヨコエビや田上さんが用意した「イトミミズハゼ」など水生生物の観察も楽しんだ。

父親と参加した津市の小学2年白井悠真君(7)は「家族で毎年来る銚子川がきれいな秘密が分かった。ゆらゆら帯を見られて良かった」と笑顔を見せ、田上さんは「銚子川は域の自然に親しむ」をテーマに開講し、本年度最終回の12月は熊野市楯ヶ崎の観察会を予定している。



銚子川の水生物やゆらゆら帯を観察する親子(29日、紀北町相賀の銚子川河口で)